

## 令和5年度第3回大府市子ども・子育て会議（要点記録）

日 時：令和5年11月27日（月）午後1時30分～午後2時30分  
場 所：大府市役所 全員協議会室

出席委員：渡辺顕一郎、中村佳世子、林田佳美、福島芳恵、首藤良一、関元、早川和喜、加藤美穂子、澤田まなみ、秋津佐智恵

欠席委員：なし

傍聴者： 2名

事務局：健康未来部長、子ども未来課長、子ども未来課主幹兼指導保育士、子ども未来課子ども支援係長、子ども未来課子ども支援係主任、子ども未来課子ども支援係主事、幼児教育保育課長、幼児教育保育課指導保育士、幼児教育保育課保育係長

### 1. 会長あいさつ

### 2. 報告

- (1) おおぶこども輝く未来応援八策について  
事務局より説明  
質疑応答

#### 会長

こどもどもまんなか応援サポーター宣言が1つの柱になっており、かつこれまでのように子ども・子育て基金を活用して様々な子ども・子育て施策を展開していくということでしょうか。補足等ありましたら事務局からお願いします。

#### 事務局

大府市では、子ども・子育て基金を設置して子ども・子育て施策のための資金を確保し、スピード感をもって必要な子ども・子育て施策を行ってきました。

こども家庭庁が設立され、国としてもこどもまんなか社会をつくりましようといったなかで、大府市として独自になにかできないかというところで、これまでのおおぶ子ども・子育て八策に引き続き、新八策として、ライフステージに応じた五つの柱、三つの梁の施策を新たに推進していきます。

こどもどもまんなかおおぶの展開として、こどもどもまんなか応援サポーターを募集し、行政だけではなくオール大府で、こどもをまんなかにした社会をつくっていかうとするものです。

具体的な事業については、加速化事業として、たとえば産前産後サポーター派遣事業として家事援助により家庭の負担を軽減することを目的としてサポーターを派遣したり、一時的保育サービスの拡充であったり、様々な具体的な事業を進めながら、こどもたちを見守っていかうとする新しい取組になります。

### 3. 議題

#### (1) こども計画の骨子について

事務局より説明

質疑応答

#### 会長

P.5 策定スケジュールについてとありますが、今は大府市に限らず、全国の自治体が次期計画の策定に向けてアンケート調査を進めていく年度となり、令和5年度中になんとかアンケート調査を終わらせたい、というスケジュールとなっています。従来の就学前児童の保護者及び小学校就学児童の保護者に加え、今回はこどもまんなかということで国からもなるべくこどもの意見を聴くようにとされていることから、保護者だけでなくこども自身に対する調査も行うことが大きな特徴です。そして令和6年度に入ったあたりで集計結果がまとまり、集計に基づき令和6年度中に計画策定するという流れとなります。よって、次年度はアンケート調査に基づいた計画案が出ますので、委員の皆さまにご審議いただき、修正を加えていくこととなります。先ほど説明もあったとおり、こどもを中心に置いてくださいという政策の動きになっており、こどもや若者の意見を聴いたうえで計画策定をしていくことになるので、令和6年度にアンケート調査とは別に、こどもや若者に直接ヒアリングして、こどもや若者の意見も反映させて修正を加えたうえで、最終的にパブリックコメントを経て計画が決定していくこととなります。これら2年間の流れが資料にまとめてあります。

P.7では、おおぶこども輝く未来応援八策（新八策）とこども大綱基本方針との関係が示されています。国のこども大綱の策定が遅れており、どこの自治体に行ってもその話題を耳にしますが、年内には確定することになっています。こども大綱が確定した段階で内容を確認して調査項目を適宜修正し決定していくので、最終的な内容は事務局にお任せいただければということでした。

これらの流れを踏まえてP.8 令和5年度中にやるべきこととしては、子ども・子育て支援事業計画についてはほぼ従来とおりとなっており、調査票案も添付されていますが、概ねこの内容の調査を実施していきます。加えて、こども基本法やこども家庭庁の発足などに伴い、こども自身に来年度ヒアリングを行います。その手前でアンケート調査として市内の小学5年生と中学2年生へ全数調査をします。また、若者の15歳から39歳については1,000名無作為抽出して調査を行います。まだ具体的な調査票としては見えてきませんが、内容としては資料に記載のとおり、こどもたち自身のことや、居場所、困り事悩み事などについて意識調査を行う予定となっています。

従来の子ども・子育て支援事業計画に関しては大きな変化はなさそうなので、特に保育や子育て支援を中心とする計画を策定していくこととなりますが、800名というのは全数でしょうか。抽出でしょうか。また、アンケートの形態や送付・回収方法について教えてください。アンケート調査票は郵送でのやりとりになるのか、もしくは保育園や小学校を通じて配布・回収になるのでしょうか。また、自治体によっては、保護者にとってウェブの方が使い勝手が良いとのことでウェブ上での調査とするところも出てきていますが、大府市ではどのようにお考えですか。

#### 事務局

全数ではなく抽出です。また、アンケートは紙で、郵送での送付及び回収で考えていま

す。

#### 会長

調査に関して、業務委託はされますか。

#### 事務局

集計等作業部分のみを委託予定です。市が作成した調査票を印刷してもらい、回収後の調査票、特に子ども・子育て支援事業計画の方は紙なので入力して集計するところと、加えて新しくウェブで実施することも計画の方は、集計データをお渡ししてまとめていただくという委託を考えています。分析等は市が行います。

#### 委員

こども計画アンケート対象者で、若者は15歳以上39歳以下となっており、若者を39歳以下までとしているのは何かあるのでしょうか。

#### 事務局

子ども・若者育成支援推進法において39歳までを若者と捉えていて、愛知県の計画も同様に39歳までを対象としており、それらに倣っています。

#### 委員

11月ぎかいの広場のなかに、「子ども会加入率向上のためにどのようなことが協議されたのか」という問いに対し、「関係部署の職員による大府市子ども会の在り方検討会議を2回開催し、子ども会の意義や子ども会が抱える課題を、関係部署と共有したうえで支援策を検討した」とありました。

子ども会加入率が低いといいますが、もう少し分母の取り方を考える必要があると思います。こどもを健全育成するという子ども会の基本的な目的に立って考えれば、例えばスポーツ少年団や少年少女発明クラブもこどもの健全育成に繋がる活動をしていると思いますし、こどもの健全育成を図っているそのような他の組織には入っているけれど、子ども会には入っていないというこどももいるはずで、子ども会の加入率を、ただ単純に子ども会加入者を小学校就学児童全数で割るだけでなく、こどもの健全育成を図っている他組織の加入状況もアンケートで把握して、組み入れる必要があるのではないのでしょうか。たとえば、昔は子ども会で夏休みに朝のラジオ体操があり、こどもたちが自主的に自分たちで運営していた本当の子ども会活動でした。夏休み中に規則正しい生活をするためにとっても大事なことでしたが、今は地区によっては実施しておらず、そういうことをとつても、子ども会って必要なのかなと思ってしまいます。

#### 会長

子ども会以外にもこどもの健全育成を図る他組織があり、子ども会には未加入でも他のそういった組織で活動していたり、子ども会に限定せずそういったところで居場所があれ

ばいいのではということですね。また、こども自身にアンケートを行うので、そこで聞いてはどうかとのご意見ですね。事務局からはいかがでしょうか。

#### 事務局

今年度、市子連事務局が社協から市へ移管し、児童センターの職員も含めて、子ども会を支援していく方向に変更しました。だからといってすぐに子ども会加入率が上がるわけではなく、子ども会の会員数は減少し、役員の成り手もいなくなっている現状です。大府市の計画なので、本来であれば市独自で実施すればよいのですが、自治体横並びでベンチマークをやろうとすると、数値として把握すべきことも生じます。

おっしゃるとおり、こどもと地域が繋がる場合は、子ども会だけではなく、スポーツ少年団やボーイスカウトなど様々あり、こどもがどこかに繋がっていて居場所があることが大事だと思います。

こどもが地域でたのしく過ごせるために、こどもをまんなかにして、周りの大人がサポーターになって支えていくために、大府市ではこどもどまんなか応援サポーター制度を開始しています。地域でこどもを育てているのは子ども会だけでなく、家庭や学校だけでなく、色々な組織も含めて行っていくというなかで、おっしゃった視点は大事なことです。今後アンケート等を実施していく際には、そういうところも含めて考えていきたいと思っています。

#### 会長

貴重なご意見ですので、よろしく願いいたします。

#### 委員

就学前児童の保護者用のアンケートにつきまして、まさに私は回答対象になるので、郵送されたらもちろん書いて投函しようと思っています。昨日、内容を把握しようと思って実際にやってみたのですが、やっぱり量が多いというのが率直な感想です。また、わざわざポストに投函しに行かなければいけないというのは手間だと思いますが、回収率はどれくらいを期待されているのでしょうか。

#### 会長

想定している回収率は大体どれくらいでしょうか。前回も同じ方法で実施していれば、前はどれくらいだったのかも踏まえて教えてください。

#### 事務局

前回も同様の方法で調査を行い、回収率は大体 65%くらいでした。ただ、前は 11 月にはアンケートを発送していたのですが、今回は国のスケジュールの遅れにより 1 月頃の発送となりそうで、期間はタイトとなってしまいます。

#### 会長

回収率が下がってしまうことは大丈夫なのでしょう。回答率が減少する見込みがあるならば、サンプルはその分増やしてもよいのではないのでしょうか。

#### 事務局

無作為抽出であれば、標本数はもっと少なくてもよいものです。多くとれる方がよいですが、精度としては1,000にしようが2,000にしようが変わるわけではなく、それよりもデータの取り方を無作為抽出にすることに意味があります。作為的に抽出したり地域を限定したりすると、地域独自の事情があったり、年齢層で考えが偏って誤差が出たりします。設問の多さにつきましては、事務局の方で補足や工夫ができるかを課題とさせていただきたいと思います。

#### 会長

こども計画に関するアンケートはウェブフォームによる調査をするとのことで、こどもたちは学校から配布されているタブレットを使って回答するため、回収率はかなり高くなりそうですね。学校の先生からも回答してねとこどもたちに伝えていくことになるのですよね。

#### 事務局

そのように校長会でお願いをする予定です。

#### 委員

ただやりなさいと一言伝えるだけではなく、こどもたちが取り組めるように順序立てて行っていきたいと思います。

#### 委員

若者に対してははがきを送付するとのことで、自分の子が対象年齢ですが、郵便を見ません。せめてそこにQRコードでもあってアクセスできたらちょっとやってみようと思うかもしれないのですが、いかがでしょうか。

#### 会長

「はがき送付 ウェブフォーム」と記載があるのでQRコードを貼付されるのではと思いますが、いかがでしょうか。

#### 事務局

会長のおっしゃるとおり、はがきにQRコードを貼付し、ウェブフォームにアクセスして回答していただきます。ただ、はがきをなかなか見ない場合もあると思うので、800名より少し多めの1,000名を抽出して送付する予定です。

### 3. 閉会あいさつ（健康未来部長）

以上